

高島住職は揭示伝道について、まず「私の受けとめ」ということを大切にされているといい、「阿弥陀さんを通して、私に呼びかける声が揭示板。肝心の『私自身』に問いが生まれてくるような言葉を伝えていきたい。人に見てもらおうことが大事なのではなく、私がどう見るかだと思えます」と語ってくださいました。

また、住職が若い頃、修練中に和田稠先生から直接教わった「寺族は寺の中にいる門徒」という言葉から、寺の中にいる者として、ご門徒に教えるのではなく、ご門徒から教えてもらおうという視点を忘れずに関わっている、と心がまえも教えてくれた。自らの受けとめの揭示伝道だが、時々、車を停めて法語を確認する人を目にする、言葉が活きていることがわかって嬉しくなる。話は変わり、常福寺には鎌倉時代初期の木造阿弥陀如来立像(重要文化財)が遺されている。仏師・運慶の子、湛慶の作と伝えられる阿弥陀如来は、増山城主の神保安芸守の祈願所だった久遠寺の本尊であった。それが上杉謙信による増山城焼き打ちに遭い、一人の僧侶により運び出された。

御縁ありて



常福寺住職 高島静心

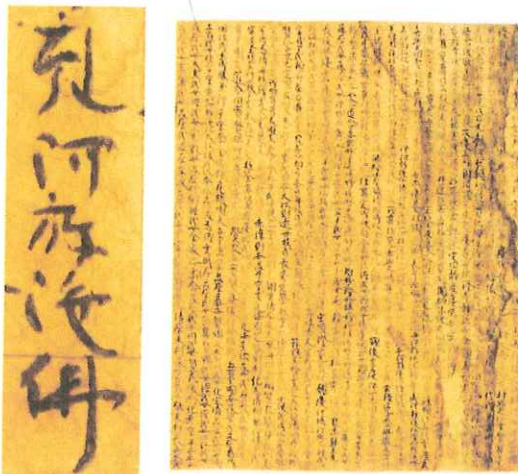
五月二日 連休始め京都へ、 京都在住の真美子、孫の大智、美葉音、百々葉の四人を迎えに 妻と自家用車で行く事になる。当然帰りも送る事になる 京都に送る時は私一人で七日に行き一泊して八日に奈良国立博物館で「快慶展」があるので是非見たいと計画しました 七日に京都に着き八日に電車で行く時間を調べて貰うと博物館が休館日と分かり もう一泊して九日午前中に拝観する事にする

その願いは 常福寺の御本尊は「湛慶作」と言われているが作風からすると「快慶」に近いといわれてきた 本年の三月NHKの「心の時代」を見ていると浄土宗門主知恩院門跡の伊藤唯眞先生が昭和四十九年に滋賀県で行われた仏像の一斉調査によって発見され仏様の中(胎内佛)がレントゲン検査によって二十六点の巻物が有り 此れを取り上げて見るとなんと四万五千人もの人の名前が、その中には平家や源氏の人の名前がはいっていたのでまったく驚きで有りました(交名帳)

そしてその後、砺波市開発の中村宮に移され崇敬をされていたものを、明治の神仏分離令によって当時の住職が御本尊として受け、常福寺で今日まで大切にされてきた。常福寺に来た時、すでに阿弥陀さんは煤けて真っ黒でしたが、調査をすると、久遠寺に安置されていた頃から、当時の人々が毎日お参りし、給仕をしていた跡が確認されました。そのため、腐食や虫食いにはならなかった。八百年余りの月日にわたり多くの人々が大切に受け継いできた、わが寺の御本尊です。御本尊にも揭示板にも共通して、如来のはたらきがあると感じています」と住職はおっしゃった。



又何故この仏様を勢観房源知上人が建立したかと言うと法然上人を最後までお世話をし 法然上人の一周忌に向けて敵味方を越えて名前を入れたと言う事です 又、快慶の作と言う事もわかりました、たくさんの方の名前が仏様の胎内に入っているという事は八百年前の人々の心に御参りし現在にいたっている。仏様は多くの人に守られその心が私にまでとどいている 「ただ念佛して弥陀に たすけられ まいらすべし」と言う声が直接八百年を超えて聞こえてくる感じがし 此れは是非 「快慶」の作品を拝みたいと思うようになり八日は博物館が休みなのでそれでは知恩院に行つてこようと思いたち タクシーに乗り 知恩院に



順阿弥陀仏等交名

長く崇敬されてきた御本尊は、今まで守り続けてきた数知れない人々の想いや、八百年の歴史を語るタイムカプセルのようだ。住職はその歴史を護り、揭示伝道も如来からの呼びかけとして大切にしていきたいと語った。

(高岡教区通信員・常盤智子)

伝道揭示板

贗坊主 金袈裟かけて 南無阿弥陀  
されど 御布施は 贗金でない  
(暁鳥 敏)

常福寺 「木造阿弥陀如来立像」

大正十三年八月十六日に国宝に指定され、現在は国指定重要文化財に指定されている。

【御開扉】毎年 八月一日・二日・三日

(出典 『真宗二千十七年七月号記載』)

入ると本堂全体が工事中でした、山門の入口にお守りを守る人や朱印帳を書いている人がいたので「重要文化財の阿弥陀様はどこにおられますか」聞くと「そんな仏様はわからない奥で聞いて下さい」と云われ奥へ行くと三人の僧侶がおられ「実は滋賀県におられた重要文化財の仏様に御参りしたのですが?」「その仏様は出張して おいでません」「え!どこへ出張ですか」「はい 奈良国立博物館です」「そうですか、私明日行くつもりです、ところで 伊藤先生に御会いできませんか」「先生は知恩院の管長ですから忙しい方でおそらく無理でしょう」「そうですねか」年配の僧曰く「君が断るのはダメだ 内事室に電話をして直接聞いてもらいなさい 電話番号をききなさい」「ハイ」走つていかれ十分程待つっていると電話番号を教えてもらい「私は砺波の真宗大谷派の常福寺住職です。先生の出演されたテレビを見て感動しました、先生のお話しを詳しく訊きたいのですが」「そうですね、それではその資料を送りますのでファックス番号を教えてください」「いや 私は……の門の近くにいるのです」「そうですね、それでは門跡のスケジュールを聞いて見ます」

# ともがら

編集と発行  
開発山 常福寺  
砺波市大窪 50  
平成 29 年 7 月 1 日発行  
第 55 号

私はどうせダメだろうと思って電話を待っていると「すいませんが十時〜十時半の時間があいているのですが」「ハイ結構です」「二十分位待っていると、応接室に案内されドキドキしながら待つて居りますと小さな声で「ナンマンダブツ・ナンマンダブツ」と念佛を唱えながら入つて来られ、私は思わず「テレビでお会いした人と同じですわ」と声を発したらニッコリ笑らわれたので思わず手を合わせておりました。(和顔愛語)人は笑顔が大切だと感じました。先生の言葉「アミダ様は 沢山の人の願いの形の形であり南無阿弥陀仏そのものであります 四万五千人まで数えましたが正直言つてそれ以上有りました、敵味方関係なく出て来るのです非常に感動しました。」先生の言葉は優しく耳に響いてまいりました、あつという間に三十分がたつてしまひ、でも先生は喋り続けておられました。付添いの方が「先生そろそろ時間です」まだ話を聞きたかったのですが「先生ありがとうございます」と深々と御礼を申し上げお別れしました。今から思うとスナップ写真、先生に言葉を書いてもらえればと悔やんで居ります、次の日先生の言葉を思い出し乍ら博物館で多くの阿弥陀如来様(快慶作)に直接お参りして来ました 常福寺の仏様には胎内佛は有りませんが修理中に紛失したと聞いております おそらくこの仏様と同じ形で多くの人の名前が入っていたのでなからうか推測しますと改めて大変な仏様を給仕している事に手を合わせて居ります。

釋靜心 合掌

## 祠堂経ご案内

暑中お見舞い申し上げます。  
常日頃常福寺の護持に尽き心から御礼申し上げます。

祠堂経

- 八月一日 法話 福光町 馬川透流師
  - 八月二日 法話 高岡市 大島一声師
  - 八月三日 法話 小松市 河合清閑師しょうげん
- 三日間共午前九時半始まり  
午後二時始まり



【牡丹】



※毎座ごとに国宝阿弥陀如来の

御開扉があります。

【牡丹】



【大賀蓮】



## 同朋会 御案内

毎月十日 午後二時

奇数月 講師 清水芳隆師

偶数月 講師 常福寺住職

(お勤めの練習)

詳しくは 常福寺

(〇七六三―三二―四八八)へ

## 編集後記

テレビのニュースで小林麻央さんの有りのままを引き受けて、最後まで素敵な笑顔がありがとうのニュースに目頭を熱くして見ているその後 豊田真由子衆議院議員の我欲のままに当たりさらしているニュースいらだちの心がおさまりません  
本年も二十本の牡丹を追加しました。世の中にどんなことが起きても二百輪の花が咲き見事でした

## お寺の掲示板

### 常福寺

(高岡教区第四組)  
富山県砺波市大窪五十番地  
住職 高島 靜心たかしまじょうしん

### 掲示板は阿弥陀さんからの“呼びかけ”

富山県西部の砺波平野では、カイニヨと呼ばれる屋敷林に囲まれた家々によって、平野一面に点在する散居村の集落が成り立つ。春夏秋冬に織りなす景観は美しく、農村の原風景のような雰囲気を醸し出している。JR城端線油田駅から東へ徒歩十五分ほど行ったところに、常福寺はある。

麦畑や田んぼに囲まれた寺の門前に立つと、掲示板と、寺宝で国指定重要文化財の「木造阿弥陀如来立像」の石碑が目についた。

住職の高島靜心さんに話を伺った。

掲示伝道を始めたきっかけは、入寺した時、同朋会や行事案内の掲示板がなく、自作したことに始まる。その後、ご門徒に寄附金をお願いして、現在の掲示板が建った。境内には他にも、もう一つ自作の掲示板があり、高岡教区教化委員会より発行されている掲示板法語ポスターの中から選んだ、折々の法語を伝えている。